

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 就労支援サービス | その他 | 集中講義 | 1 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -大城 篤志 | 1年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 本科目は社会福祉士受験資格取得のために必要な科目です。就労支援に関わる法律や制度など専門職者に求められる知識をしっかりと学びましょう。また、講義を通して、人間にとって働くことの意味や価値を考える機会にしたいと思います。 | メッセージ 現代の厳しい労働環境を理解した上で、就労支援を必要とする人々（例えば、若者、低所得者、母子世帯、障害者、高齢者など）に対してどのような福祉的支援が求められているのか一緒に考えていきましょう。 |
| | 到達目標 ①就労支援を展開していく上で必要となる法律や制度について理解する。 ②就労支援に係る組織、団体、専門職それぞれの役割と実際の様子について理解する。 ③就労支援における関係機関の間の重層的ネットワークの状況について理解する。 | |

| | | | |
|-------|--|-----------------------------|------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 現代の労働環境の動向、労働者の特徴および労働法制の概要 | 提示された宿題をする |
| | 2 | 就労支援サービスに係る法律や制度の概要 | 提示された宿題をする |
| | 3 | 障害者と就労支援 | 提示された宿題をする |
| | 4 | 若者と就労支援 | 提示された宿題をする |
| | 5 | 低所得者と就労支援 | 提示された宿題をする |
| | 6 | 母子世帯と就労支援 | 提示された宿題をする |
| | 7 | 就労支援に係る組織、団体、専門職それぞれの支援の概要 | 提示された宿題をする |
| 8 | まとめ | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |
| 16 | | | |
| | テキスト・参考文献・資料など 参考文献・資料は講義時間に随時紹介します。 | | |
| | 学びの手立て 履修の心構え：集中講義なので、遅刻や欠席をすると理解度が下がります。遅刻や欠席をせずしっかりと学びましょう。 学びを深めるために：与えられた宿題に取り組み、講義時間で学んだことを深めていきましょう。 | | |
| | 評価 試験（40％）： 課題提出状況（30％） 受講態度（30％） | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目：社会福祉士受験取得に関わる科目 次のステージ：相談援助実習やボランティア活動につなげる。 |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/ 演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習 I | 前期 | 火 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -竹沢 昌子 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。 | 本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。 |
| 到達目標 | 社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。 | |

| | | | |
|--------|---|------------------------------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。 | 演習の最後に提示します。 |
| | 2 | ソーシャルワークの目的と使命 | 以下同じです。 |
| | 3 | ソーシャルワークの価値 | |
| | 4 | ソーシャルワーカーの役割 | |
| | 5 | 自己覚知① ライフヒストリーを読み解く | |
| | 6 | 自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する | |
| | 7 | 自己覚知③ 他者理解 | |
| 8 | 自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値 | | |
| 9 | 基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解 | | |
| 10 | 基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション | | |
| 11 | 基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション | | |
| 12 | 基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感 | | |
| 13 | 基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感 | | |
| 14 | 基本的な面接技術③ ラポール形成 | | |
| 15 | 基本的な面接技術④ ワーカーの心得 | | |
| 16 | 演習のまとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。 | | |
| 学びの手立て | ①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関係科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。 | | |
| 評価 | 課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%） | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/ 演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習 I | 前期 | 火 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 岩田 直子 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。 | 本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。 |
| 到達目標 | 社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。 | |

| | | | |
|--------|---|------------------------------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。 | 演習の最後に提示します。 |
| | 2 | ソーシャルワークの目的と使命 | 以下同じです。 |
| | 3 | ソーシャルワークの価値 | |
| | 4 | ソーシャルワーカーの役割 | |
| | 5 | 自己覚知① ライフヒストリーを読み解く | |
| | 6 | 自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する | |
| | 7 | 自己覚知③ 他者理解 | |
| 8 | 自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値 | | |
| 9 | 基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解 | | |
| 10 | 基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション | | |
| 11 | 基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション | | |
| 12 | 基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感 | | |
| 13 | 基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感 | | |
| 14 | 基本的な面接技術③ ラポール形成 | | |
| 15 | 基本的な面接技術④ ワーカーの心得 | | |
| 16 | 演習のまとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | 随時紹介します。 | |
| 学びの手立て | ①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。 | | |
| 評価 | 課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%） | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習 I | 前期 | 火 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 比嘉 昌哉 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。 | 本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。 |
| 到達目標 | 社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。 | |

| | | | |
|-------|------------------------------------|---|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。 | 演習の最後に提示します。 |
| | 2 | ソーシャルワークの目的と使命 | 以下同じです。 |
| | 3 | ソーシャルワークの価値 | |
| | 4 | ソーシャルワーカーの役割 | |
| | 5 | 自己覚知① ライフヒストリーを読み解く | |
| | 6 | 自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する | |
| | 7 | 自己覚知③ 他者理解 | |
| 8 | 自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値 | | |
| 9 | 基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解 | | |
| 10 | 基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション | | |
| 11 | 基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション | | |
| 12 | 基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感 | | |
| 13 | 基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感 | | |
| 14 | 基本的な面接技術③ ラポール形成 | | |
| 15 | 基本的な面接技術④ ワーカーの心得 | | |
| 16 | 演習のまとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。 | | |
| | 学びの手立て | <p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしましょう。</p> | |
| | 評価 | 課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%） | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/ 演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習 I | 前期 | 火 1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -宮城 美智子 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①ソーシャルワークの目的・使命・価値について理解する。②他者との交流を通じて自己理解、他者理解を深める。③ソーシャルワーカーとしてのコミュニケーション技術の基本を身につける。④本科目と社会福祉士養成に関わる科目で学習する事柄が関連していることに気づき、これらの関連性を総合的に理解する。 | 本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本中の基本を学びます。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、グループワークやロールプレイ、ゲーム等を通して実感を伴って理解することが期待されます。社会福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていきましょう。 |
| 到達目標 | 社会福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解することができる。特に、自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解することができる。 | |

| | | | |
|--------|--|------------------------------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション～他の科目との関連性および本講義の目的を理解する。 | 演習の最後に提示します。 |
| | 2 | ソーシャルワークの目的と使命 | 以下同じです。 |
| | 3 | ソーシャルワークの価値 | |
| | 4 | ソーシャルワーカーの役割 | |
| | 5 | 自己覚知① ライフヒストリーを読み解く | |
| | 6 | 自己覚知② ワークを通して自己覚知を経験する | |
| | 7 | 自己覚知③ 他者理解 | |
| | 8 | 自己覚知④ 価値観交流、援助者としての価値 | |
| | 9 | 基本的なコミュニケーション技術①コミュニケーションの基本的理解 | |
| | 10 | 基本的なコミュニケーション技術② 言語的・準言語的コミュニケーション | |
| | 11 | 基本的なコミュニケーション技術③ 非言語的コミュニケーション | |
| | 12 | 基本的な面接技術① 受容・傾聴・共感 | |
| | 13 | 基本的な面接技術② 受容・傾聴・共感 | |
| 14 | 基本的な面接技術③ ラポール形成 | | |
| 15 | 基本的な面接技術④ ワーカーの心得 | | |
| 16 | 演習のまとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。 | | |
| 学びの手立て | ①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために： 本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしていきましょう。 | | |
| 評価 | 課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%） | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

多様な専門職と協働してニーズを解決する等、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|--------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習Ⅱ | 後期 | 火1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -宮城 直子 | 2年 | 授業終了後に受け付けます | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p> | <p>社会福祉の現場は実に多様です。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p> |
| 到達目標 | <p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p> | |

| | | | |
|----------------|---|-------------------------------------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | 演習の最後に提示します |
| | 2 | ソーシャルワーカーの役割 | 以下同じです。 |
| | 3 | 社会福祉専門職の実践を理解する① 社会的排除 | |
| | 4 | 社会福祉専門職の実践を理解する② 虐待（高齢者） | |
| | 5 | 社会福祉専門職の実践を理解する③ 虐待（障害児者） | |
| | 6 | 社会福祉専門職の実践を理解する④ 家庭内暴力（DV、その他） | |
| | 7 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑤ ホームレス | |
| | 8 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑥ 地域包括ケア（高齢者、児童、その他） | |
| | 9 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑦ 地域福祉（社会福祉協議会） | |
| | 10 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑧ 地域福祉（NPO、自治会） | |
| | 11 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑨ 更生保護 | |
| | 12 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑩ 権利擁護活動 | |
| | 13 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑪ 低所得者 | |
| 14 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑫ 国際社会福祉 | | |
| 15 | まとめ① | | |
| 16 | まとめ② | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>随時紹介します。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動を楽しみましょう。</p> | | |
| 評価 | <p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p> | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

多様な専門職と協働してニーズを解決する等、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|--------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習Ⅱ | 後期 | 火1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 岩田 直子 | 2年 | 授業終了後に受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p> | <p>社会福祉の現場は実に多様です。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p> |
| 到達目標 | <p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p> | |

| | | | |
|--|-------------------------|-------------------------------------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | 演習の最後に提示します |
| | 2 | ソーシャルワーカーの役割 | 以下同じです。 |
| | 3 | 社会福祉専門職の実践を理解する① 社会的排除 | |
| | 4 | 社会福祉専門職の実践を理解する② 虐待（高齢者） | |
| | 5 | 社会福祉専門職の実践を理解する③ 虐待（障害児者） | |
| | 6 | 社会福祉専門職の実践を理解する④ 家庭内暴力（DV、その他） | |
| | 7 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑤ ホームレス | |
| | 8 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑥ 地域包括ケア（高齢者、児童、その他） | |
| | 9 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑦ 地域福祉（社会福祉協議会） | |
| | 10 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑧ 地域福祉（NPO、自治会） | |
| | 11 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑨ 更生保護 | |
| | 12 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑩ 権利擁護活動 | |
| | 13 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑪ 低所得者 | |
| 14 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑫ 国際社会福祉 | | |
| 15 | まとめ① | | |
| 16 | まとめ② | | |
| テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。 | | | |
| <p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p> | | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

多様な専門職と協働してニーズを解決する等、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|--------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習Ⅱ | 後期 | 火1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -竹沢 昌子 | 2年 | 授業終了後に受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p> | <p>社会福祉の現場は実に多様です。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p> |
| 到達目標 | <p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p> | |

| | | | |
|----------------|--|-------------------------------------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | 演習の最後に提示します |
| | 2 | ソーシャルワーカーの役割 | 以下同じです。 |
| | 3 | 社会福祉専門職の実践を理解する① 社会的排除 | |
| | 4 | 社会福祉専門職の実践を理解する② 虐待（高齢者） | |
| | 5 | 社会福祉専門職の実践を理解する③ 虐待（障害児者） | |
| | 6 | 社会福祉専門職の実践を理解する④ 家庭内暴力（DV、その他） | |
| | 7 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑤ ホームレス | |
| | 8 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑥ 地域包括ケア（高齢者、児童、その他） | |
| | 9 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑦ 地域福祉（社会福祉協議会） | |
| | 10 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑧ 地域福祉（NPO、自治会） | |
| | 11 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑨ 更生保護 | |
| | 12 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑩ 権利擁護活動 | |
| | 13 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑪ 低所得者 | |
| 14 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑫ 国際社会福祉 | | |
| 15 | まとめ① | | |
| 16 | まとめ② | | |
| テキスト・参考文献・資料など | <p>随時紹介します。</p> | | |
| 学びの手立て | <p>①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。</p> | | |
| 評価 | <p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p> | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

多様な専門職と協働してニーズを解決する等、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/ 演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|--------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習Ⅱ | 後期 | 火1 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -宮城 美智子 | 2年 | 授業終了後に受け付けます | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>①多領域のソーシャルワーク実践を学び、ソーシャルワークの多様性を学ぶと同時にソーシャルワーク実践の共通点を学ぶ。</p> <p>②社会的排除・格差、虐待、暴力、その他今日の社会問題の解決に向けた支援を総合的、包括的に学ぶ。</p> <p>③相談援助実習指導Ⅰで実施する施設体験学習につながる知識を学ぶ。</p> | <p>社会福祉の現場は実に多様です。相談援助演習Ⅱでは、ソーシャルワークが具体的にどのような場所で、また、どのような方法で展開しているのか学びます。</p> |
| 到達目標 | <p>ソーシャルワークが実際にはどのように展開されているのか理解を深めることができる。 また、援助のプロセスにおいて知識や技術がどのように活かされているか理解することができる。</p> | |

| | | | |
|---|-------------------------|-------------------------------------|-------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | 演習の最後に提示します |
| | 2 | ソーシャルワーカーの役割 | 以下同じです。 |
| | 3 | 社会福祉専門職の実践を理解する① 社会的排除 | |
| | 4 | 社会福祉専門職の実践を理解する② 虐待（高齢者） | |
| | 5 | 社会福祉専門職の実践を理解する③ 虐待（障害児者） | |
| | 6 | 社会福祉専門職の実践を理解する④ 家庭内暴力（DV、その他） | |
| | 7 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑤ ホームレス | |
| | 8 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑥ 地域包括ケア（高齢者、児童、その他） | |
| | 9 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑦ 地域福祉（社会福祉協議会） | |
| | 10 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑧ 地域福祉（NPO、自治会） | |
| | 11 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑨ 更生保護 | |
| | 12 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑩ 権利擁護活動 | |
| | 13 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑪ 低所得者 | |
| 14 | 社会福祉専門職の実践を理解する⑫ 国際社会福祉 | | |
| 15 | まとめ① | | |
| 16 | まとめ② | | |
| テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。 | | | |
| <p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。</p> | | | |
| <p>評価</p> <p>課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%）</p> | | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを相談援助演習Ⅲ、Ⅳに活かしていくことを期待します。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/ 演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習Ⅲ | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -幸喜 穂乃 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。 | 本演習では、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に、そして主体的に相談援助のプロセスを学びましょう。 |
| 到達目標 | 相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。 | |

| | | | |
|-------|----------------|--|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | 演習の最後に提示します。 |
| | 2 | 相談援助の機能 | 以下同じです。 |
| | 3 | 相談援助の対象とニーズ | |
| | 4 | ニーズの発見① | |
| | 5 | ニーズの発見② | |
| | 6 | インテーク | |
| | 7 | アセスメント① | |
| 8 | アセスメント② | | |
| 9 | プランニング | | |
| 10 | 支援の実際① | | |
| 11 | 支援の実際② | | |
| 12 | モニタリング、効果測定① | | |
| 13 | モニタリング、効果測定② | | |
| 14 | 終結、アフターケア① | | |
| 15 | 終結、アフターケア② | | |
| 16 | まとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | 随時紹介します。 | |
| | 学びの手立て | ①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。 | |
| | 評価 | 課題（30％）、レポートの内容（30％）、プログラムへの主体的参加（30％）、授業態度（10％） | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習Ⅲ | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 岩田 直子 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。 ②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。 | 本演習では、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に、そして主体的に相談援助のプロセスを学びましょう。 |
| 到達目標 | 相談援助のプロセスを理解し説明できる。 ソーシャルワーカーの役割について説明できる。 | |

| | | | |
|--------|---|--------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | 演習の最後に提示します。 |
| | 2 | 相談援助の機能 | 以下同じです。 |
| | 3 | 相談援助の対象とニーズ | |
| | 4 | ニーズの発見① | |
| | 5 | ニーズの発見② | |
| | 6 | インテーク | |
| | 7 | アセスメント① | |
| | 8 | アセスメント② | |
| | 9 | プランニング | |
| | 10 | 支援の実際① | |
| | 11 | 支援の実際② | |
| | 12 | モニタリング、効果測定① | |
| | 13 | モニタリング、効果測定② | |
| 14 | 終結、アフターケア① | | |
| 15 | 終結、アフターケア② | | |
| 16 | まとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。 | | |
| 学びの手立て | ①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。 | | |
| 評価 | 課題（30％）、レポートの内容（30％）、プログラムへの主体的参加（30％）、授業態度（10％） | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習Ⅲ | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -仲村 小夜子 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。 ②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。 | 本演習では、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に、そして主体的に相談援助のプロセスを学びましょう。 |
| 到達目標 | 相談援助のプロセスを理解し説明できる。 ソーシャルワーカーの役割について説明できる。 | |

| | | | |
|---|------------|--------------|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | 演習の最後に提示します。 |
| | 2 | 相談援助の機能 | 以下同じです。 |
| | 3 | 相談援助の対象とニーズ | |
| | 4 | ニーズの発見① | |
| | 5 | ニーズの発見② | |
| | 6 | インテーク | |
| | 7 | アセスメント① | |
| | 8 | アセスメント② | |
| | 9 | プランニング | |
| | 10 | 支援の実際① | |
| | 11 | 支援の実際② | |
| | 12 | モニタリング、効果測定① | |
| | 13 | モニタリング、効果測定② | |
| 14 | 終結、アフターケア① | | |
| 15 | 終結、アフターケア② | | |
| 16 | まとめ | | |
| テキスト・参考文献・資料など 随時紹介します。 | | | |
| 学びの手立て ①履修の心構え： 受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。 | | | |
| 評価 課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%） | | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性

他の専門職と協働していく専門性など、今後の社会福祉従事者に求められる専門知識や技術を学びます。実践を重視します。

[/ 演習]

| | | | | |
|--------|---------|------|-----------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助演習Ⅲ | 後期 | 金 2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -竹藤 登 | 2年 | 授業終了後に教室で受け付けます | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | ①相談援のプロセスを段階ごとに学び、それぞれの段階で支援者はどのような支援を行うのか学ぶ。②相談援助演習ⅠⅡ、相談援助の理論と方法など、関連する科目で得た知識や技術を活かして相談援助のプロセスの理解を深める。 | 本演習では、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッションを取り入れて授業を進めます。関連科目で学んだことと連動させながら、具体的に、そして主体的に相談援助のプロセスを学びましょう。 |
| 到達目標 | 相談援助のプロセスを理解し説明できる。ソーシャルワーカーの役割について説明できる。 | |

| | | | |
|-------|----------------|--|--------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | 時間外学習の内容 |
| | 回 | テーマ | |
| | 1 | オリエンテーション | 演習の最後に提示します。 |
| | 2 | 相談援助の機能 | 以下同じです。 |
| | 3 | 相談援助の対象とニーズ | |
| | 4 | ニーズの発見① | |
| | 5 | ニーズの発見② | |
| | 6 | インテーク | |
| | 7 | アセスメント① | |
| 8 | アセスメント② | | |
| 9 | プランニング | | |
| 10 | 支援の実際① | | |
| 11 | 支援の実際② | | |
| 12 | モニタリング、効果測定① | | |
| 13 | モニタリング、効果想定② | | |
| 14 | 終結、アフターケア① | | |
| 15 | 終結、アフターケア② | | |
| 16 | まとめ | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | 随時紹介します。 | |
| | 学びの手立て | ①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目です。自ら積極的に学ぶことを心がけましょう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目です。他の受験資格関連科目と連動する内容ですので、教員の指導のもと関連科目を履修して下さい。 ②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をししましょう。 | |
| | 評価 | 課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、授業態度（10%） | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本演習で学んだことを相談援助演習Ⅳに活かしていくことを期待します。 |
|-------|--|

| | | | | |
|----------------|----------|------|----------------------------------|-----|
| 科目 基本 情報 | 科目名 | 期 別 | 曜日・時限 | 単 位 |
| | 相談援助実習指導 | 通年 | 月4(後期)・火3(通年) | 6 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 比嘉 昌哉 | 3年 | 比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-----------------------|--|---|
| 学 び の 準 備 | ねらい 相談援助実習(事前・事後指導含む)を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等の知識・能力を習得する。さらに、実習全体を通して関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 | メッセージ 待ちに待った相談援助実習で、期待と不安が交錯していることでしょう。不安を払拭するには、自ら積極的に準備するしかありません。ゼミ生とともに楽しく取り組んで下さい。 |
| | 到達目標 事前学習を通して実習の準備をしっかりと行い、自らの実習に対する不安を払拭する。また、事後学習では自らの実習を振り返ることを主としつつも、他のゼミ生の実習体験も共有することで社会福祉士がジェネラリストであることを理解する。 | |

| | |
|-----------------------|---|
| 学 び の 実 践 | 学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) 前期(16コマ) 1. オリエンテーション 2. 相談援助実習の意義と位置づけ 3. 社会福祉士倫理綱領理解 4. 実習計画書・実習日誌概説 5. 実習計画書の作成：実習目標達成等理解 6. 実習日誌作成方法：作成の意義等理解 7. 実習オリエンテーションⅡ(合同ゼミ) 8. ～11. 実習配属先理解：施設・機関等理解①～④ 12. 実習オリエンテーションⅢ(各ゼミ) 13. 実習配属予定施設・機関事前訪問指導 14. ～15. 実習の心得・実習目標等再確認①～② 16. まとめ：前期の振り返り 後期(32コマ) 1. 後期オリエンテーション 2. ～7. 実習成果の整理と共有 その1：グループ①～⑥ 8. ～11. 実習報告会の実施 その1：各ゼミ①～④ 12. ～15. 実習報告書の作成 その1：説明及び個別の取り組み①～④ 16. ～19. 実習報告会の実施 その2：現場にて①～④ 20. ～23. 実習報告会の実施 その3：合同ゼミ①～④ 24. ～27. 実習成果の整理と共有 その2：個別①～④ 29. ～30. 実習報告書の作成 その2：全体①～② 31. ～32. まとめ：全体の振り返り①～② |
| | テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。 必要に応じて適宜紹介する。 |
| | 学びの手立て これまでの学びを総動員して相談援助実習に備える。特に自ら行く施設・機関については、よく調べておくこと。一方、事後学習についてはジェネリックソーシャルワークを意識し、他のゼミ生の実習経験も共有しながらともに学ぶこと。 |
| | 評価 出席状況、実習報告書、課題提出状況及び配属先の実習指導担当者の評価などを総合的にみて評価する。 |

| | |
|-----------------------|---|
| 学 び の 継 続 | 次のステージ・関連科目 最終学年で受講する社会福祉士関連科目では、社会福祉士＝ジェネラリストであることを意識しながら、学んでほしい。また、国家試験に向けて準備すること。 |
|-----------------------|---|

| | | | | |
|--------|----------|------|--|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助実習指導 | 通年 | 月4(後期)・火3(通年) | 6 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 安次富 郁哉 | 3年 | 担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | 本相談援助実習指導のねらいは、①配属実習を通して、専門的な知識・技術・関連知識の理解を深めること②専門従事者としての倫理観等の形成を目指す③多職種連携について学ぶことである。 | 単に、社会福祉士国家試験の受験資格を取得するという気持ちで受講するのではなく、本科目のねらいを十分に熟知すること。 |

| | |
|------|---|
| 到達目標 | 到達目標は①福祉専門従事者としての専門知識、技術を習得すること②福祉専門従事者としての倫理観を身につけること③多職種連携のあり方を理解することである。 |
|------|---|

| | | | |
|-------|--------|-------------------------------|-----------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション・受講生登録確認 | |
| | 2 | 相談援助実習までの流れ 日本社会福祉士会倫理綱領 | 倫理綱領熟読 |
| | 3 | 日本社会福祉士会倫理綱領 | 倫理綱領熟読 |
| | 4 | バイスティックの7原則説明 | バイスティック7原則熟読・暗記 |
| | 5 | 相談援助実習オリエンテーションⅡ(合同) | バイスティック7原則熟読・暗記 |
| | 6 | 日本社会福祉士会倫理綱領及び医療ソーシャルワーカー倫理綱領 | 医療ソーシャルワーカー倫理綱領 |
| | 7 | 実習達成目標について | 実習達成目標を考える |
| | 8 | 現4年生からの配属先別アドバイス(4年生と合同) | 実習に対する心配事など考える |
| | 9 | 相談援助実習オリエンテーションⅢ(ゼミ別) | |
| | 10 | 接遇(社会人招聘:接遇指導) | 接遇で大事なことは |
| | 11 | 相談援助実習配属先について事前学習① グループ学習 | 配属先情報の入手 |
| | 12 | 相談援助実習配属先について事前学習② グループ学習 | |
| | 13 | 相談援助実習配属先について事前学習③ グループ学習 | |
| | 14 | 実習日誌の書き方・注意点など① | 他大学の日誌記述要項を調べる |
| | 15 | 実習日誌の書き方・注意点など② | |
| | 16 | 実習日誌の書き方・注意点など③ 前期振り返り | |
| | 17 | 実習配属先への礼状要領 実習振り返り① | |
| | 18 | 実習振り返り① | |
| | 19 | 実習振り返り② | |
| | 20 | 実習振り返り③ | |
| | 21 | 実習報告書作成要項説明及び形式 | |
| | 22 | 実習報告書各自で取り組む① | |
| | 23 | 実習報告書各自で取り組む② | |
| | 24 | 実習報告書印刷① | |
| | 25 | 実習報告書印刷② | |
| | 26 | 実習報告会(ゼミ内)① | 報告会準備 パワーポイント |
| | 27 | 実習報告会(ゼミ内)② | 報告会準備 パワーポイント |
| | 28 | 実習報告会(ゼミ内)③ | 報告会準備 パワーポイント |
| | 29 | 実習報告会(ゼミ内)④ | 報告会準備 パワーポイント |
| 30 | 予備日 | | |
| 31 | ゼミ振り返り | | |

| | |
|-----------------------|---|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など 特にテキストは指定しない。資料については随時配付する。</p> |
| び の 実 践 | <p>学びの手立て ソーシャルワーカーの倫理綱領をしっかりと熟読し、理解すること。バイステックの7原則を覚え、しっかりと理解すること。</p> |
| | <p>評価 評価については、出席率、実習報告書の提出、実習報告の内容、ゼミ内での発言回数などを重視する。また、相談援助実習に関しては、実習配属先の指導者の評価を勘案する。</p> |
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目 常に福祉に関わる従事者としての倫理観、人格等の形成をこころがけることが必要である。関連科目としては、相談援助の理論と方法などがある。</p> |

※ポリシーとの関連性

相談援助演習で習得したことを踏まえ、また、180時間以上の相談援助実習を通して、ソーシャルワークの理解を深めます。

[/演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|---------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助実習指導 | 通年 | 月4(後期)・火3(通年) | 6 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 岩田 直子 | 3年 | 授業終了後に受け付けます。 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい ゼミ仲間と共に実習に向けて準備をしたり事後報告会を開催し、相談援助への理解を深めます。 | メッセージ 相談援助実習は多くの関係者のご指導や協力を得て初めて成立します。感謝と自覚をもって学びましょう。 |
| | 到達目標 事前学習および実習で習得したことを通してソーシャルワークの理念、知識、技術について深く考察することができます。また、実習報告会を通してソーシャルワークについて議論を深めることができます。 | |

| | | | |
|-------|---------|--|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント | | |
| | 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 前期オリエンテーション①ゼミの概要説明、ゼミ生自己紹介など | オリエンテーションの振り返り |
| | 2 | 前期オリエンテーション②年間スケジュール確認、ゼミ体制づくり、事前学習課題提示 | ボランティア活動の準備 |
| | 3 | 事前学習①障害者福祉の国際的動向 | 事前学習における発表の準備 |
| | 4 | 事前学習②障害者福祉の国内動向 | 事前学習における発表の準備 |
| | 5 | 相談援助実習オリエンテーションⅡ | 事前学習における発表の準備 |
| | 6 | 事前学習③配属施設の理解 | 講義の振り返り |
| | 7 | 事前学習④配属施設の理解 | ボランティア活動報告準備 |
| | 8 | 事前学習⑤配属施設の理解 | ボランティア活動で日誌の練習 |
| | 9 | 事前学習⑥援助技術の理解～実習計画書の作成のポイント | ボランティア活動で日誌の練習 |
| | 10 | 事前学習⑦援助技術の理解～日誌の書き方、個別支援計画 | 実習計画書の作成準備 |
| | 11 | 事前学習⑧援助技術の理解～家族支援、地域支援 | 実習計画書の作成準備 |
| | 12 | 事前学習⑨援助技術の理解～アウトリーチ、社会資源の発掘および連携、実習計画書の内容を確認 | 個別支援計画に関する集中講義準備 |
| | 13 | 相談援助実習オリエンテーションⅢ | 個別支援計画に関する集中講義準備 |
| | 14 | 実習計画書の内容の確認 | 個別支援計画に関する集中講義準備 |
| | 15 | 前期まとめ | 個別支援計画に関する集中講義復習 |
| | 16 | 後期オリエンテーション | オリエンテーションの振り返り |
| | 17 | 事後学習①ジェネラリストソーシャルワークの理解 | 資料の復習 |
| | 18 | 事後学習②ソーシャルワーカーの役割の理解 | 実習報告の準備 |
| | 19 | 事後学習③実習報告 | 実習報告の準備 |
| | 20 | 事後学習④実習報告 | 実習報告の準備 |
| | 21 | 事後学習⑤実習報告 | 実習報告の準備 |
| | 22 | 事後学習⑥実習報告 | 実習報告の準備 |
| | 23 | 実習施設訪問①発表およびディスカッション | ディスカッションの振り返り |
| | 24 | ソーシャルワークアプローチの理解① | 資料の復習 |
| | 25 | ソーシャルワークアプローチの理解② | 資料の復習 |
| | 26 | ソーシャルワークアプローチの理解③ | 資料の復習 |
| | 27 | 実習施設訪問②発表およびディスカッション | ディスカッションの振り返り |
| | 28 | 実習報告書作成① | 実習報告書の印刷など |
| | 29 | 実習報告書作成② | 2月実施実習報告会準備 |
| 30 | 実習報告会準備 | 2月実施実習報告会準備 | |
| 31 | 後期まとめ | 2月実施実習報告会準備 | |

| | |
|-----------------------|--|
| 学 | <p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定のテキストはありません。</p> |
| び の 実 践 | <p>学びの手立て 事前学習が重要ですのでしっかり取り組みましょう。また、文献やボランティア活動等を通して障害の特性を理解しておきましょう。</p> |
| | <p>評価 事前学習の取り組み（40％）、事後学習の取り組み（40％）、実習報告会の取り組み（20％）</p> |
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目 次のステージ：ソーシャルワークの学びを深める。関連科目：社会福祉専攻専門科目</p> |

※ポリシーとの関連性

社会福祉士受験資格に必須な科目であり、現場での配属実習と閉講する科目として、現場での実習に関連させながら講義を進める

[/演習]

| | | | | |
|--------|----------|------|------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助実習指導 | 通年 | 月4(後期)・火3(通年) | 6 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 保良 昌徳 | 3年 | 講義中に受けつける オフィスアワーの活用を歓迎する | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい 前期は、配属実習に必要な知識・技術について再確認と補足を行う 後期は、配属実習と閉講しながら専門職となるべく必要な知識・技術の精度を高める | メッセージ 机上の学習だけではなく、現場において責任をもって対応できる為に必要とされる知識・技術・倫理観・多専門職との連携、対象者に対する専門職としてのあり方を常に心にとめて学習に臨むこと |
| | 到達目標 講義で提示されたキーワードの修得 講義で提示された介護・面接・対人援助技術等の修得 専門職としての意識・倫理の修得 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 講義で提示されたキーワードの修得 講義で提示された介護・面接・対人援助技術等の修得 専門職としての意識・倫理の修得 |
| | |

| | |
|-------|---------------------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) |
| | |
| | |
| | |

| | |
|-------|----------------|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など |
| | |

| | |
|-------|--------|
| 学びの実践 | 学びの手立て |
| | |

| | |
|-------|----|
| 学びの実践 | 評価 |
| | |

| | |
|-------|-------------|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 |
|-------|-------------|

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本
科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[/実験実習]

| | | | | |
|----------------|------------------|------------|------------------------------|---------|
| 科目 基本 情報 | 科目名 相談援助実習指導Ⅰ | 期別 前期 | 曜日・時限 金2 | 単位 2 |
| | 担当者 比嘉 昌哉 | 対象年次 2年 | 授業に関する問い合わせ | |
| | | | 各教員のオフィスアワー・メールアドレスを確認して下さい。 | |

| | | |
|-----------------------|---|--|
| 学 び の 準 備 | ねらい 相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。 | メッセージ 現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。 |
| | 到達目標 授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。 | |

| | |
|---|---|
| 学 び の 実 践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(初回) 授業の主旨・展開について 2. 施設理解(4～5回) 高齢者施設・障がい者施設・児童福祉施設等 3. 「現場体験学習」に向けてのオリエンテーション(1回) 「現場体験学習」の目的。「現場体験学習」ごとの学生同士の顔合わせ、「現場体験学習」前の事前訪問等。 5～6月に実施予定。 4. 利用者とのコミュニケーション(2～3回) 対高齢者・障がい者・児童等 5. 社会福祉士の価値と倫理(2～3回) 「現場体験学習」前に踏まえること。利用者のプライバシー保護と個人情報等。 6. 記録の仕方とその重要性(2～3回) 「現場体験学習」の記録 7. 授業のまとめ(1回) 「現場体験学習」実施に向けて。 <p>※「現場体験学習」は、原則同一施設で目安として3～7日間ほど(24時間以上)、行うこととする。 原則8～9月に実施することとする。 ※「現場体験学習」の振り返りは、「相談援助演習Ⅱ」にて行う。「現場体験学習の活動記録」は、その初回授業時に提出すること。それまでは各自できちんと保管すること。</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて授業時に提示することとする。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守る。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p> |
| <p>評価</p> <p>授業の出欠、演習への参加状況及び課題の評価等を元に総合的に評価する。</p> | |

| | |
|-----------------------|---|
| 学 び の 継 続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p> |
|-----------------------|---|

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[/実験実習]

| | | | | |
|--------|------------------|------------|------------------------------|---------|
| 科目基本情報 | 科目名 相談援助実習指導Ⅰ | 期別 前期 | 曜日・時限 金2 | 単位 2 |
| | 担当者 保良 昌徳 | 対象年次 2年 | 授業に関する問い合わせ | |
| | | | 各教員のオフィスアワー・メールアドレスを確認して下さい。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい *相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的な実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。 | メッセージ 現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。 |
| | 到達目標 授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。 | |

| | |
|---|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(初回) 授業の主旨・展開について 2. 施設理解(4～5回) 高齢者施設・障がい者施設・児童福祉施設等 3. 「現場体験学習」に向けてのオリエンテーション(1回) 「現場体験学習」の目的。「現場体験学習」ごとの学生同士の顔合わせ、「現場体験学習」前の事前訪問等。5～6月に実施予定。 4. 利用者とのコミュニケーション(2～3回) 対高齢者・障がい者・児童等 5. 社会福祉士の価値と倫理(2～3回) 「現場体験学習」前に踏まえること。利用者のプライバシー保護と個人情報等。 6. 記録の仕方とその重要性(2～3回) 「現場体験学習」の記録 7. 授業のまとめ(1回) 「現場体験学習」実施に向けて。 <p>※「現場体験学習」は、原則同一施設で目安として3～7日間ほど(24時間以上)、行うこととする。 原則8～9月に実施することとする。 ※「現場体験学習」の振り返りは、「相談援助演習Ⅱ」にて行う。「現場体験学習の活動記録」は、その初回授業時に提出すること。それまでは各自できちんと保管すること。</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて授業時に提示することとする。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守る。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p> |
| <p>評価</p> <p>授業の出欠、演習への参加状況及び課題の評価等を元に総合的に評価する。</p> | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[/実験実習]

| | | | | |
|--------|-----------|------|------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助実習指導Ⅰ | 前期 | 金2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 岩田 直子 | 2年 | 各教員のオフィスアワー・メールアドレスを確認して下さい。 | |

| | | |
|-------|--|--|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>*相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。</p> | <p>現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。</p> |
| 到達目標 | 授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。 | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(初回) 授業の主旨・展開について 施設理解(4～5回) 高齢者施設・障がい者施設・児童福祉施設等 「現場体験学習」に向けてのオリエンテーション(1回) 「現場体験学習」の目的。「現場体験学習」ごとの学生同士の顔合わせ、「現場体験学習」前の事前訪問等。 5～6月に実施予定。 利用者とのコミュニケーション(2～3回) 対高齢者・障がい者・児童等 社会福祉士の価値と倫理(2～3回) 「現場体験学習」前に踏まえること。利用者のプライバシー保護と個人情報等。 記録の仕方とその重要性(2～3回) 「現場体験学習」の記録 授業のまとめ(1回) 「現場体験学習」実施に向けて。 <p>※「現場体験学習」は、原則同一施設で目安として3～7日間ほど(24時間以上)、行うこととする。 原則8～9月に実施することとする。 ※「現場体験学習」の振り返りは、「相談援助演習Ⅱ」にて行う。「現場体験学習の活動記録」は、その初回授業時に提出すること。それまでは各自できちんと保管すること。</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて授業時に提示することとする。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守る。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p> |
| 評価 | <p>授業の出欠、演習への参加状況及び課題の評価等を元に総合的に評価する。</p> |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシーに実践活動を重視した教育を掲げている。本科目を理論と実践を結びつける基礎科目として位置づけている。

[/実験実習]

| | | | | |
|--------|------------------|------------|------------------------------|---------|
| 科目基本情報 | 科目名 相談援助実習指導Ⅰ | 期別 前期 | 曜日・時限 金2 | 単位 2 |
| | 担当者 安次富 郁哉 | 対象年次 2年 | 授業に関する問い合わせ | |
| | | | 各教員のオフィスアワー・メールアドレスを確認して下さい。 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい *相談援助実習では相談援助にかかる知識と技術について具体的な実践的に理解し実践的な技術等を体得する。そのため、本科目では本実習の事前学習：「現場体験学習」として現場に出向きその準備を行う。具体的には、「現場体験学習」の意義や施設理解を深める。特に地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解に焦点を置く。 | メッセージ 現場理解のために、授業関連だけではなく、ボランティア活動等を通して積極的に施設等へ足を運んでください。 |
| | 到達目標 授業及び「現場体験学習」を通して、地域社会における当該施設の社会的役割や利用者(高齢者・障がい者・児童)の理解が深まる。 | |

| | |
|---|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(初回) 授業の主旨・展開について 2. 施設理解(4～5回) 高齢者施設・障がい者施設・児童福祉施設等 3. 「現場体験学習」に向けてのオリエンテーション(1回) 「現場体験学習」の目的。「現場体験学習」ごとの学生同士の顔合わせ、「現場体験学習」前の事前訪問等。5～6月に実施予定。 4. 利用者とのコミュニケーション(2～3回) 対高齢者・障がい者・児童等 5. 社会福祉士の価値と倫理(2～3回) 「現場体験学習」前に踏まえること。利用者のプライバシー保護と個人情報等。 6. 記録の仕方とその重要性(2～3回) 「現場体験学習」の記録 7. 授業のまとめ(1回) 「現場体験学習」実施に向けて。 <p>※「現場体験学習」は、原則同一施設で目安として3～7日間ほど(24時間以上)、行うこととする。 原則8～9月に実施することとする。 ※「現場体験学習」の振り返りは、「相談援助演習Ⅱ」にて行う。「現場体験学習の活動記録」は、その初回授業時に提出すること。それまでは各自できちんと保管すること。</p> |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて授業時に提示することとする。</p> |
| | <p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、受け身ではなく積極的に参加すること。また、課題についてはしっかりと取り組み、提出期限を守る。一方、社会福祉士基礎科目については、関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に並行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」等は重要である。</p> |
| <p>評価</p> <p>授業の出欠、演習への参加状況及び課題の評価等を元に総合的に評価する。</p> | |

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>「現場体験学習」の振り返りは、関連科目である「相談援助演習Ⅱ」で行う。また本科目の発展的科目には、「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。「相談援助実習」がスムーズに展開できるようにしっかりと学ぶこと。そして最終的には、ディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p> |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|------------------------|------------|---------------------------|---------|
| 科目基本情報 | 科目名 相談援助の理論と方法Ⅱ | 期別 前期 | 曜日・時限 木3 | 単位 2 |
| | 担当者 知名孝(13)、知念隆生(3) | 対象年次 2年 | 授業に関する問い合わせ 人間福祉学科 知名孝 | |

| | | |
|-------|---|--|
| 学びの準備 | ねらい 本科目では相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに関する知識と技術、相談援助の実際について学ぶ。 | メッセージ 将来、社会福祉専門職を目指す皆さんにとって、本科目は基幹となる科目である。社会福祉にかかる専門的知識等の習得をはじめ、自らの将来の仕事イメージしながら受講してほしい。 |
| | 到達目標 本科目を受講することで、社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の仕事が理解できるようになる。本科目では、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や相談援助(ソーシャルワーク)の対象、そのプロセス及びさまざまな実践モデルとそのアプローチについて理解できる。具体的には、ケースマネジメント、アウトリーチ、記録及び事例研究の技術等を身につけることができる。 | |

| | |
|-------|---|
| 学びの準備 | 到達目標 本科目を受講することで、社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の仕事が理解できるようになる。本科目では、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や相談援助(ソーシャルワーク)の対象、そのプロセス及びさまざまな実践モデルとそのアプローチについて理解できる。具体的には、ケースマネジメント、アウトリーチ、記録及び事例研究の技術等を身につけることができる。 |
|-------|---|

| | | | |
|-------|----------------|-------------------------------|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | オリエンテーション | |
| | 2 | 人と環境の交互作用① I：第3章 | ※各授業の予習・復習をすること |
| | 3 | 人と環境の交互作用② I：第3章 | |
| | 4 | 相談援助の対象 II：第1章 | ※期間中に小課題を2つ課します。 |
| | 5 | ケースマネジメント II：第2章 | 締切を守り提出して下さい。 |
| | 6 | アウトリーチ① I：第7章 | 詳しくは、初回オリ時に説明する。 |
| | 7 | アウトリーチ② I：第7章 | |
| | 8 | 記録の技術① I：13章 | |
| | 9 | 記録の技術② I：13章 | |
| | 10 | 個人情報の保護の意義と留意点① II：第11章 | |
| | 11 | 個人情報の保護の意義と留意点② II：第11章 | |
| | 12 | 相談援助における情報通信技術(IT)の活用① II：12章 | |
| | 13 | 相談援助における情報通信技術(IT)の活用② II：12章 | |
| | 14 | 事例研究① II：13章 | |
| | 15 | 事例研究② II：13章 | |
| 16 | まとめ | | |

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | テキスト・参考文献・資料など 1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 3. その他、必要に応じて授業時に示すこととする。 |
|-------|---|

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | 学びの手立て 本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、課題についてしっかりと取り組み、提出期限はちゃんと守ること。一方、社会福祉士の関連科目(基礎科目)については関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に併行して受講する「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等は重要である。 |
|-------|--|

| | |
|-------|---|
| 学びの実践 | 評価 授業の出欠、ワークへの参加状況及び各教員の与える諸課題等の評価を元に総合的に評価する。 |
|-------|---|

| | |
|-------|---|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 本科目の発展的科目には「相談援助の理論と方法Ⅱ～Ⅳ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。その他、併行して「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等を受講し、さらに本科目受講後には「相談援助実習指導」等で学びの継続を行うこと。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。 |
|-------|---|

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げています。本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけています。

[/演習]

| | | | | |
|--------|-------------|------|------------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助の理論と方法Ⅲ | 後期 | 水 6 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | -石川 和徳 | 2年 | k-ishikawa@super-workers.com | |

| | | |
|-------|---|---|
| 学びの準備 | ねらい クライアント・システムに対して、その全体像を適切に把握し、個別の状況に応じた「根拠に基づく実践」を行うための、ソーシャルワークの基礎理論および実践モデル・アプローチを学びます。 | メッセージ 福祉課題を抱えた方からの相談に応じ、必要に応じたサービス利用の支援方法、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携方法、地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成方法などソーシャルワーカーとしての役割を学んでいきましょう。 |
| | 到達目標 ①様々な生活上の問題を人と環境との相互作用の中で生じる事象として考察することができる。 ②相談援助の対象となるクライアント・システムについて説明できる。 ③地域生活の維持を可能にする社会資源の活用・調整・開発、ネットワークングについて説明できる。 ④様々な実践モデルやアプローチの特徴について説明できる。 ⑤相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 ⑥相談援助の事例を通して、総合的かつ包括的な相談援助の実践方法について考察することができる。 | |

| | | | |
|-------|--|--------------------------------------|------------------|
| 学びの実践 | 学びのヒント 授業計画 | | |
| | 回 | テーマ | 時間外学習の内容 |
| | 1 | 授業の目的・ねらい・概要・到達目標を説明 | ※全期間:各授業の復習を行うこと |
| | 2 | 社会福祉援助活動の概念と定義、相談援助における対象の理解 | 授業ごとに課される課題に取り組む |
| | 3 | ケースマネジメントの目的と構成要素及びその過程 | |
| | 4 | ケースマネジメントにおけるアセスメントとケアプラン作成 | |
| | 5 | ケアプラン作成演習 | |
| | 6 | グループを活用した相談援助、グループワークの意義、展開過程 | |
| | 7 | コーディネーション・ネットワークングの目的と意義、その方法と技術・留意点 | |
| | 8 | 相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的 | |
| 9 | 三つの実践モデル（治療・生活・ストレングス） | | |
| 10 | 様々なアプローチⅠ（心理社会的・機能的） | | |
| 11 | 様々なアプローチⅡ（問題解決・課題中心） | | |
| 12 | 様々なアプローチⅢ（危機介入・行動変容） | | |
| 13 | 様々なアプローチⅣ（エンパワメント・ナラティブ） | | |
| 14 | スーパービジョン、ケースカンファレンスの意義と目的 | | |
| 15 | スーパービジョン演習 | | |
| 16 | 後期の振り返りと評価試験 | | |
| 実践 | テキスト・参考文献・資料など | | |
| | 1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 2. その他、必要に応じて授業時に示すこととします。 | | |
| | 学びの手立て | | |
| | 本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業にしたいと考えています。授業は受け身ではなく、積極的に参加してください。各授業の振り返りを行い、分からなかったことは質問をしてください。「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」は関連科目として、理解を深めて欲しいと思っています。 | | |
| | 評価 | | |
| | 授業の出欠、ワークへの参加状況及び課題に対するレポート等により総合的に評価します。レポートは課題の理解度を元に、具体的なイメージ、私見の記載などを期待します。 | | |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | 次のステージ・関連科目 関連科目として、社会福祉士受験資格のための必要科目(相談援助の基盤と専門職、相談援助演習、現代社会と福祉、地域福祉の理論と方法等)があげられるが、本科目受講後には「相談援助実習指導」等で学びの継続を行ってください。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となってもらいたいと思います。 |
|-------|--|

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。

[/一般講義]

| | | | | |
|--------|-------------------|------|-------------------------|----|
| 科目基本情報 | 科目名 | 期別 | 曜日・時限 | 単位 |
| | 相談援助の理論と方法Ⅳ | 後期 | 土2 | 2 |
| | 担当者 | 対象年次 | 授業に関する問い合わせ | |
| | 比嘉昌哉(2)、社会人講師(14) | 2年 | 5-418、mahiga@okiu.ac.jp | |

| | | |
|-------|--|---|
| 学びの準備 | ねらい | メッセージ |
| | <p>本科目では、相談援助における人と環境との相互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに関係する知識と技術、相談援助の実践について学ぶ。</p> | <p>将来、社会福祉専門職(以下、SWr)を目指す皆さんにとって、「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅳ」は基幹となる科目である。特に本科目(Ⅳ)はコーディネーターを専任比嘉が務め、複数の社会人特別講師(SWr)を招聘した授業計画となっている。「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅲ」を踏まえて、社会福祉の専門的知識等の習得し、自らの将来の仕事をイメージしながら受講してほしい。</p> |
| 到達目標 | <p>本科目を受講することで、SWrの仕事が理解できるようになる。最終的には、相談援助(ソーシャルワーク)の定義、構造と機能、そのプロセス及びさまざまな実践モデルとそのアプローチについて理解できる。具体的には各分野(障害児者(発達障がい含む)の生活・就労支援、病院における患者支援、地域における子育て支援等)におけるSWrの役割、アウトリーチ、面接技術、記録の技術、ケースマネジメント、スーパービジョン・コンサルテーションの技術等を身につけることができる。</p> | |

| | |
|-------|--|
| 学びの実践 | <p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 就労支援とソーシャルワーク(3回) 3. 発達障がい児者のソーシャルワーク(3回) 4. 障害児者の地域支援とケアマネジメント(3回) 5. 病院における社会福祉士の役割(3回) 6. 子育て支援とソーシャルワーク(2回) 7. まとめ |
| | <p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。 3. その他、必要に応じて授業時に示すこととする。 |
| | <p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、各教員の課す課題についてしっかりと取り組むこと。課題提出期限はちゃんと守ること。一方、社会福祉士の基礎科目については関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。特に事前の「相談援助の理論と方法Ⅰ～Ⅲ」、併行して受講する「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」「相談援助演習Ⅱ・Ⅲ」等は重要である。</p> |
| | <p>評価</p> <p>授業の出欠、受講態度(ワークへの参加等)及び各担当者の与える諸課題等の評価を元に総合的に評価する。成績の内訳は、授業の出欠・受講態度が10%、各担当者の課す小課題が30%、最終テスト(課題)で60%の割合で評価する。</p> |

| | |
|-------|--|
| 学びの継続 | <p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、社会福祉士受験資格のための必要科目(相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ、相談援助演習Ⅰ～Ⅳ、現代社会と福祉Ⅰ・Ⅱ、地域福祉の理論と方法Ⅰ・Ⅱ等)があげられるが、本科目受講後には「相談援助実習指導Ⅱ・Ⅲ」等で学びの継続を行うこと。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となしてほしい。</p> |
|-------|--|